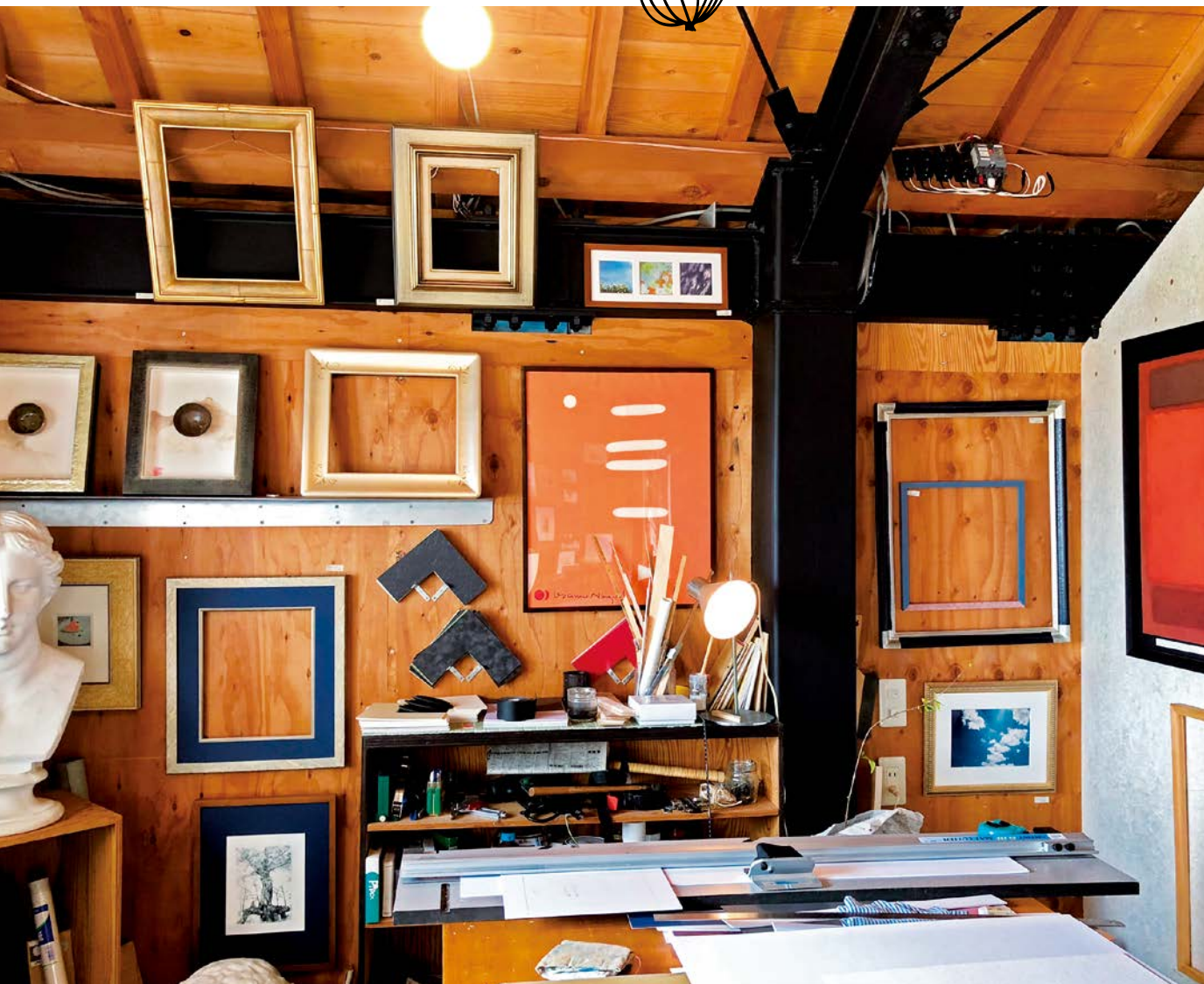


あわじ島に住もう促進協議会

うつりすも



淡路島に移住した 10人のエピソードと現在

住む前に知っておきたい淡路島の基礎知識
淡路島に移り住んだ10組の家族の生の声を
一冊の冊子にしました。



クリエイティブに移住する。
自分らしく、淡路くらし。

CONTENTS

002 もくじ

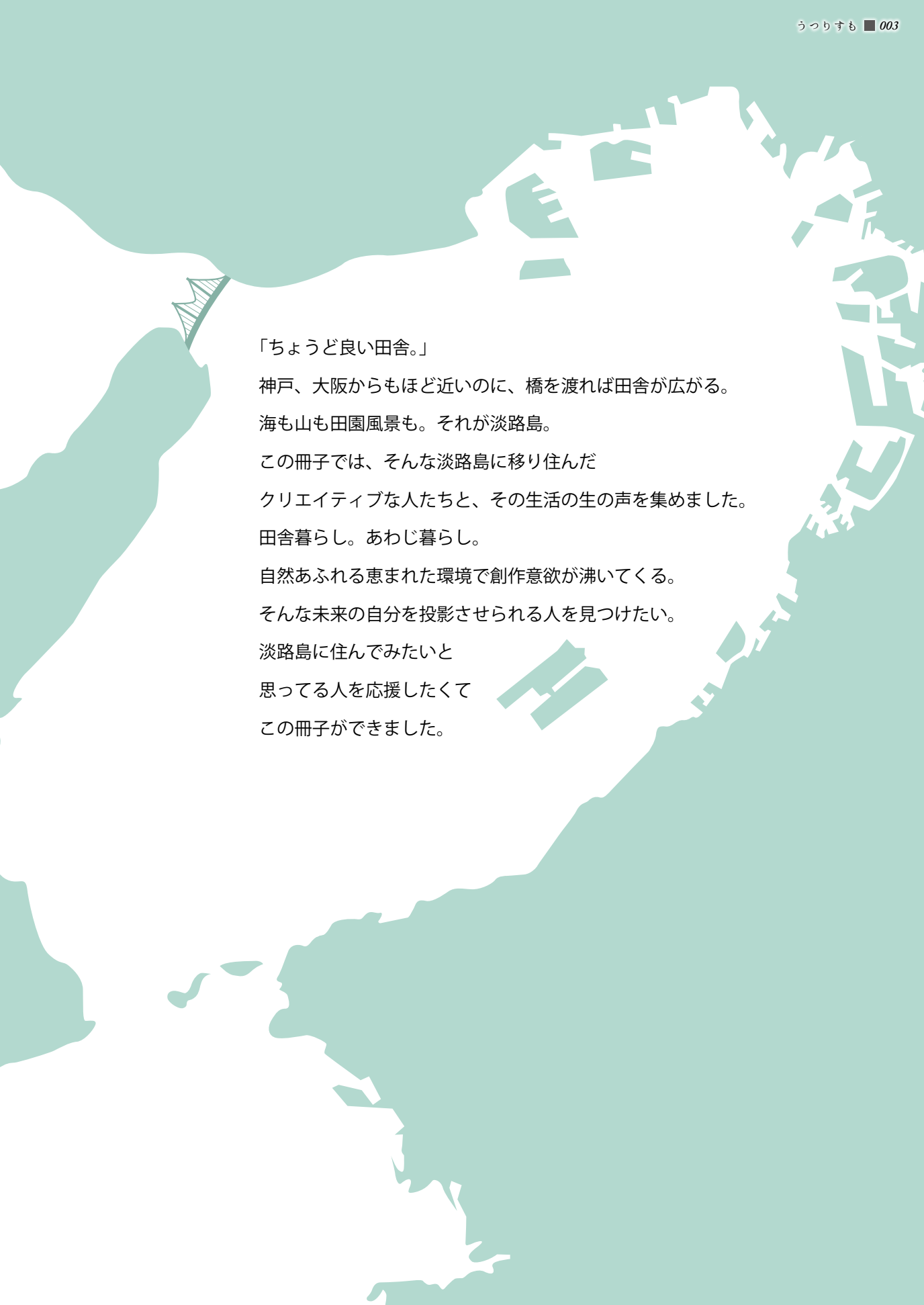
003 はじめに

004 住む前に知っておきたい淡路島の基礎知識

006 10組の家族の声。

淡路島に移り住んだ人たち

- | | | | |
|-----|----|----------------|--------------|
| 006 | 01 | 海を沸かして塩をつくる | 末澤夫妻 |
| 008 | 02 | 都市通勤という選択肢 | 時友夫妻 |
| 010 | 03 | 日本一の一味唐辛子を夢見て | 大田夫妻 |
| 012 | 04 | 楽しく生きる提案者とライター | 富田夫妻 |
| 014 | 05 | 建築も服飾もデザイン | 久保田さん・シェリルさん |
| 016 | 06 | 藍染めという生き方 | 岡田夫妻 |
| 018 | 07 | みかん農家とデザインと建築 | 森 夫妻 |
| 020 | 08 | ジェラートカフェとこだわり | 奥田夫妻 |
| 022 | 09 | 農家になる夢を叶えた女子 | 木谷さん |
| 024 | 10 | 珈琲が飲める額縁屋さん | 加藤夫妻 |
| 026 | | あわじ島に住もう促進協議会 | |
| 027 | | あわじ暮らし総合相談窓口 | |



「ちょうど良い田舎。」

神戸、大阪からもほど近いのに、橋を渡れば田舎が広がる。

海も山も田園風景も。それが淡路島。

この冊子では、そんな淡路島に移り住んだ

クリエイティブな人たちと、その生活の生の声を集めました。

田舎暮らし。あわじ暮らし。

自然あふれる恵まれた環境で創作意欲が沸いてくる。

そんな未来の自分を投影させられる人を見つけたい。

淡路島に住んでみたいと

思ってる人を応援したくて

この冊子ができました。

住む前に知っておきたい淡路島の基礎知識

淡路島は兵庫県の最南端、四国と本州の間に位置し、瀬戸内海に浮かぶ気候が温暖な島です。大きさは東京 23 区ほどですが、人口は東京都の 100 分の 1 以下の約 13 万人です。

神戸からつながる世界最長の吊り橋・明石海峡大橋と四国へつながる大鳴門橋が架かり、神戸空港から約 1 時間とアクセスの良さが人気！日本で一番最初にできた国生みの島です。

周囲約 150 km、適度なアップダウンがあり、サイクリストから「あわイチ」と呼ばれ、近年人気が高まっています。

point! 特徴



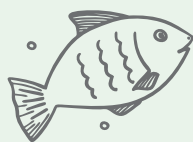
point! 温暖な気候

平均気温が 15.5℃ (1981～2010 年気象庁観測データ) で、積雪はほとんど見られません。四方を海に囲まれ朝夕風が吹き、また水田や山地が多いことから、夏は都会よりも数度気温は低く感じられます。

point! 広い空



一番高い山で 600m 程度！視界をさえぎることなく青い空が広がり、解放感を満喫できます。人工の明かりが少ないため、月明かりのない夜には美しい星空に天の川がくっきり見えます。



かつては御食国^{みけつくに}と呼ばれ、朝廷にも献上していたほど食べものが豊かです。食料自給率は何と 100% 超え！

大阪湾、播磨灘、紀伊水道で囲まれた淡路島は、名だたる海産物の産地となっています。安くて新鮮な魚介類に恵まれ、魚種の多さと味の良さは折り紙付きです。農産物では地域ブランド『淡路島玉葱』はもとより、レタス、白菜、ピーマンなど多種多様な野菜が作られています。県下第一位の出荷量を誇る牛乳のほか、高級黒毛和牛の畜産や、柑橘類・イチゴ・イチジクなどの果樹栽培、カーネーション・菊などの花卉栽培も盛んです。

point! 食べものが 美味しい



point! 生活が便利

島内に大手スーパーやホームセンターがいくつも立地しており、車があれば買い物で不便を感じることはありません。医療面では、県立淡路医療センターをはじめ、民間病院や診療所・医院がたくさん開業しています。教育では私立中学校 1 校、公立高校 5 校、私立高校 1 校、大学 2 校＋専門学校があり、学習塾も各地域で開業しています。



point!

京阪神に近い

神戸へ約 30 分、大阪へは約 1 時間。通勤や買い物など、生活面での往来が日常的に可能です。起業者にとって大消費地に近接しているメリットは大きいです。



3 市とも中学校までの医療費は無料です。保育料も条件付きで無料化されており、待機児童はほとんどありません。自然に囲まれた環境でのびのびと子育てができ、地域のつながりが強く、まちぐるみで子どもを見守っている感覚があります。



point!

子育てしやすい

淡路島で上手に暮らすコツ

今回インタビューして気付いたのは、移住した全てのみなさまがお付き合いを通じて地元とのつながりをもっておられ、その中で手助けしてもらえるような出会いがあるケースがほとんどでした。

地元や人同士のお付き合いは必須です。

人付き合い、地元や近所付き合いを大事に！

独立するにも貯金は必須です。ほとんどの方が最初の 3 年は、数百万円の貯金を切り崩して生活しています。

独立して生計を立てるつもりならまず 3 年は低収入を覚悟しましょう。

独立は甘くない。まずは貯金額と相談。

物件探しは重要です。現地を見たり、地元の方と仲良くなったり、根気強く何度も通ってじっくり探しましょう。簡単に、すぐに見つかるなんてことは、まずありません。

物件探しは根気強く、何度も足を運ぶ。

何はともあれ、「まずは相談。」と心得てください。地域性、理想の暮らし方、生業、コネクション。淡路島には未来の自分に近い生活をしている先輩移住者が多く居ます。失敗しないためにも、お気軽に相談窓口にご相談ください。

あわじ暮らし総合相談窓口

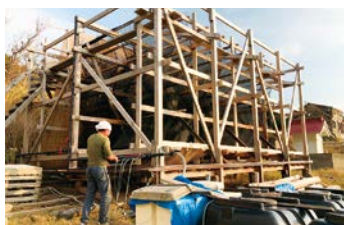
相談員：赤松





だから淡路島。

塩づくりの場所を探していき着いた淡路島。振り返っても最高の場所だと言う。輝之さんにはもともと田舎暮らしをするつもりはなかったが、住んでみると色々な豊かさがあった。
自分の目が届く範囲で、自分の手が届くものを、ずっと作り続けていける。それが可能な理想の場所だと語る。



要らないものを
ぜんぶ捨てる。

しがらみ、ノイズ、迷い、人間関係。自分の人生を生きているようで他人の人生の中で生きてる。本当はそういう方が生きやすい。苦しくても最初の目標にどうやって近づくかの努力を続けていれば、認めてくれる人が出てきて、どこかしらで手助けしてくれる。そんな関係は都会にはない魅力だったりすると語ってくれる。

辛いことも
いつか味わいになる。

しっかり計画を立てて移り住んだにも関わらず、最初の3年は月5万円で生活を余儀なくされた。明日のご飯が食べられるかわからない状況で、生活が厳しい期間が続いた。何度も辞めようかと思った。その時に両親に「何のために始めたのか？」と励まされ、その厳しい状況にもかかわらず結婚してくれ、支えてくれた歩さんがいた。

ここにはノイズが無い。
折れなければ
人生に意味が出る。



40時間かけて海水を煮詰め、塩にする。単純な作業のようでも、タイミングによって塩分濃度を見ながらの火加減や結晶度合いの微調節をこなしていく。もともと料理の仕事に就いていた輝之さんは、食の原点を突き詰めたときに、塩に行きついた。

Data 01

移住：2013年

末澤輝之さん（兵庫県神戸市出身）

末澤 歩さん（兵庫県出身）

株式会社脱サラファクトリー
自凝雪塩（おのころしずくしお）

<http://hamashizuku.com/>



01 海を沸かして塩をつくる 末澤夫妻

だから淡路島。

「そもそも淡路島は何でも美味しい。」

東京で食に関するイベントを開催していた基吉さん。友人の紹介で来た淡路島で食べた野菜・魚が美味しかったそう。

その後、何度も淡路島に訪れ、移住を決意。会社へ異動願いを出し、神戸へ転勤。淡路島は都市通勤可能な場所としても便利と語る。

人との距離が近く、
あたたかい。

淡路島で出会う人みんながあたたかく、距離が近い。近所の人、古くからある喫茶店、移住者同士のつながり。最初は知り合いもいなかったが、付き合いは自然と増え、子供の成長もあたたかく見守ってくれる。

真理子さんは、「海が見え、田園が見え、旅行気分ですべていける島。」だと言う。

ダメなところを
探すが難しい。

関西に限らず、関東、中国地方、どこに行くにも便利で、淡路島に住むメリットは多い。生活も充実し、濃密な時間をゆっくり過ごせる。

東京での経験とつながりをいかし、ライター業も開始した

生きていくのに
不便が無い。





まるで旅行。
生活に念願と夢。

真理子さんの病気をきっかけに田舎暮らしを考え始めた基吉さん。

巡り合わせ、淡路島に導かれてきたご夫婦。

淡路島に移住した途端に、念願だった子供もできた。

オープンカーで淡路島を走るという夢も叶え、心から充実した移住生活を送っている。



東京で基吉さんは美味しい素材を集め、「食」に関するイベントをおこなっていた。

淡路島に移住後もそのイベントを継続している。

今後はそのイベントの展開も目指していきたいという。

Data 02

移住：2016年

時友基吉さん（東京都出身）

時友真理子さん（東京都出身）



だから淡路島。

もともと仕事の関係で淡路島に住んでいた経験がある2人。
当時から淡路島が好きだった志穂さん。「淡路島は空が広いです。」
まわりに大きな建物もなく、年中通して晴れる日が多い淡路島の空は転勤族だった2人の過ごした土地の中でも随一だそう。「食」に携わりたかった真也さんにとっても「農」は根源にあった。

淡路島が誇る 一味唐辛子をつくる。

結婚後、農業がやりたいと退職。
その後すぐに移住。
農業の求人を見つけ、すぐに申し込んだ。驚くほどの決断力と行動力で、農地付物件も見つけ購入。
最終的に農産物の加工品も作りたいと話す大田さんご夫妻。
「いずれは作った一味唐辛子を淡路島の飲食店に卸せるようになりたい。」と語る。

家庭があっても 退職して移住する理由。

安定した職を辞め移住するのにも、不安がなかったわけではない。
ただやってみなきゃわからないこともたくさんある。
仕事優先の人生で安定重視に生きるのか、不安でも挑戦するのかを選ぶ権利はある。と、その行動力の内側にある、不安も移住の醍醐味と力強い笑顔で話してくれた。

不安がないのは
チャレンジじゃない。



「淡路島の唐辛子は風味が全然違う！」
と語る真也さん。その唐辛子で作った
試作の一味唐辛子も、抜群にいい
とのこと。商品化が楽しみだ。



Data 03

移住：2016 年

大田真也さん（兵庫県明石市出身）

大田志穂さん（大阪府出身）

株式会社 A&H

<http://aandh.jp/>



だから淡路島。

祐介さんは学生を卒業して、まずはフリーランスへ。

その時に初めて仕事をくれたのが淡路島の人だった。

その後、5年間の東京生活を経て、最終的に一番ワクワクする場所を選んだら淡路島だった。

祥子さんは、祐介さんの企画していた研修がきっかけで島と出会った。次第に島の人の生き方に憧れるようになり独立。

現在はコピーライターをしつつ、週末のカフェノマドの運営に携わる。



ワクワクを
感じずにはられない



楽しいっていうのは豊かさ。

事業の立ち上げは想像以上に大変でお金も底をつき、しばらくはあらゆる物をお金に変えて凌いだ。それでも不思議と楽しさが消えることはなかった。暮らしの豊かさはお金だけで得られるものではないと実感した。今は豊かさを感じられる暮らしのバランスを大切に過ごしている。



生き方には本当にたくさんの種類があるんだと気付かせてくれる。

淡路島には無数のコミュニティがあり、居心地が良いと思える友達が居れば、淡路島はすぐにでも住める場所。知らない生き方が淡路島にはたくさんあって、それに会う度に発見とワクワクを生んでくれる。むしろそれが淡路島ではスタンダードで、都会での仕事のスタンスを持ち込んでやらなきゃならないって思うのは間違いだと感じる。

Data 04

移住：2012年

いつもワクワクを忘れない。どんな時でも楽しいと感じる。

そのスタンスが、二人の素敵な笑顔を生み続けられる秘訣なんだと感じる。

富田祐介さん（兵庫県神戸市出身）

シマトワークス

<http://shimatoworks.jp/>

藤田祥子さん（兵庫県三木市出身）

カフェノマド / NO.24

<http://24ban.jp/>

だから淡路島。

千葉に住んでいた二人は、引っ越しを考え、ウェブ地図を開いて淡路島を見つけた。選定理由は「なんだか面白そう。」
人が住んでいるのかも知らないまま、見に来てすぐに決定。
すぐに家を解約。翌月には淡路島へ引っ越した。
都会よりも遥かに可能性が広がる
とお二人は言う。

ファッション / 工務店。
職業は自分たち自身。

関東でファッションブランドを立ち上げていたシェリルさん。お金や流行を追いかける商業的空氣に嫌気がさし、媚びたものは作りたくないに移住してきた。
今や久保田さんは建築デザインにも守備範囲を広げている。
自分たちが正直に作りたいものを作る。気が付いたら一緒に居て、気が付いたら淡路島に居た。

婚姻届けは
契約書代わり。

知識がないからこそ面白いデザインができる。動画サイトを見て実践もする。実用的なので軽トラに乗る。必要であればアルバイトもする。婚姻届けは二人の契約書代わりに使用。およそ夫婦と呼べない斬新なパートナーの形…。
自由な発想と行動のすべてはクリエイティブな二人の創作物に注がれている。



常に創作物に対して純粋に。喧嘩をするのもアイデアの出し合いの過程。最終的に良くなる方が選ばれる。人間として尊敬し合える二人から作られるクリエイティブなものは、ネットを通じ世界へ発信されている。

安定や平穩が苦手。
時代にも世間にも普通にも
とらわれない生き方。



Data 05

移住：2015 年

久保田智哉さん（静岡県出身）

シェリル・チーさん（オーストラリア出身）

cherylchee

<http://www.cherylchee.black/>

<https://cherylchee-japan.com/>

Youtube Channel:cheryl chee OFFICIAL

AKIYA（レザーアイテム／古着リメイク）

住 所：兵庫県淡路市斗ノ内 248

電 話：0799-70-6638

営 業 日：土・日曜・祝日

営業時間：11:00 ～ 19:00

※ 2019 年 10 月 12 日オープン予定

05 建築も服飾もデザイン 久保田さん・シェリルさん



だから淡路島。

ロンドンから移住した岡田夫妻。田舎でゆっくりしたいと、四国で1月ほど家を探すが良いところが見つからず。最終的にサリーさんが、「海が好きで泳ぎたい。」と帰りに道に寄った淡路島に決定。海水浴場の近くに庭のついた一軒家を借りた。ロンドンに比べても家賃が安く、都会に近いため生活にも困ることがないと言う。

売れるのはアートより
実用的なもの。

当初は機織り、シルクスクリーンなどで造ったアートなものも売ってみたが、実用的な藍染のシャツなどが売れたため、生活するためにも本格的に藍染を中心に創作。オンラインショップなども立ち上げ、少しずつ集客も増やしていく予定だそう。近所のお店から暖簾など藍染の品を受注しながら、充実した生活を送っている。

近所と繋がれば
不便がなくなる。

生活が便利。子育てのサービスも充実。ただ子供を産める病院が淡路島には少ない。近所のおばちゃんも子供の面倒を見てくれ、ご近所づきあい、ママ友など、繋がりによる助け合いがとても大事。アート寄りの繋がりが増え、アートの活動もできたら嬉しいと語ってくれた。



ロンドンから
淡路島。



淡路島で子育てをしながら生きていく。

藍染、イラスト、ウェブデザイン。アートやクリエイティブの中に私生活が絶妙に混ざり合う岡田夫妻の生き方は、淡路島で創作活動の理想の形のひとつだと言える。

Data 06

移住：2015年

岡田淳一さん（兵庫県明石市出身）

サリー・ハンコックスさん（イギリス出身）

藍藍一

<http://sally-junichi.com/>

<http://aiaii.blue/>



だから淡路島。

滋賀県出身の晶子さん、実家に帰るにも、神戸や徳島に遊びに行くにも、ちょっと遠出する気分だそう。逆に神戸からもお客さんが来てくれる。物理的に程よい距離。島のサイズと人口のバランスもよく、住む場所を選べば、コンビニ・図書館、学校、保育園、スーパーなど、生活に必要な施設がそろってコンパクトなまちだ。

みかん農家でデザイナー。
みかん農家で一級建築士。

片手間で農業というのは基本的に不可能で、それ以外の専業なるものが必要だという。しかし、兼業するにも2つの職業をもつということは、2つ分の経費がかかるということ。ただし仕事に掛けられる時間は半分ずつのリスクはあるため、夫婦2人の理想を考えた時に農業との兼業が一番しっくりくると話してくれた。

最初3年は
踏ん張りどころ。

食費をはじめ、田舎だからといって何でも安いわけじゃない。起業時には多少の貯金も必要で、3年で軌道に乗せるつもりでやった方が良いと言う。ただ、途中でお金が無くなっても、淡路島には季節のバイトがたくさんあって、意外とやっていける。出産が重なると厳しくなることもあるが、洲本市には待機児童がなく、ご近所や友人が見守ってくれる環境があり、とても住みやすいと語ってくれた。

ちょっとした生きるコツ。
選択肢が少なければ、つくればいい。



農業を中心に、果実や加工品の販売し、
農業を生業として確立していく。
夫婦2人の家族経営でちいさい農家だ
からできる農業とデザインを目指す。

写真提供：森夫妻



Data 07

移住：2012年

森知宏さん（兵庫県淡路市出身 U ターン）

森晶子さん（滋賀県出身）

森果樹園×ツギキ

<http://tsu-gi-ki.jp/>

だから淡路島。

大阪で生まれ育った正さんと、加西市出身の真衣さん。正さんは田舎暮らしがしたい。真衣さんはお店がしたい。その結論として「田舎でお店」という理想ができあがった。淡路島の選定理由は、田舎過ぎない度。海があり美味しいものがいっぱい。何より「魚が好きだから。」と真衣さん。
だから淡路島。

結婚前夜も
二人で開店準備。

引っ越して、まずは家探しから始まった淡路島生活。じっくり時間をかけて見つけた家は、地元の人からするとボロボロ。しかし二人にとっては宝物に見えた。形式にとらわれない生き方。「身内を安心させたかったから。」という理由で結婚。その式前夜まで二人は泥まみれでお店のオープン準備に取り組んでいた。

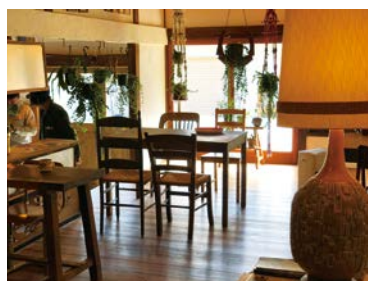
店舗オープン前の苦難も
仲間が助けてくれた

お店のオープン直前に奥さんが10年貯めていた貯金が底を突いた。しかもお店の資材の支払いが残っている。二人のとった作戦は、1年間のアルバイトだった。泣きながら、喧嘩しながらの日々があり、いつしか仲間が集まりだし、お互い様で助け合おうと、皆が手伝ってくれた。夢が形になっていった。

頑張れば…夢叶う島。

形式にとらわれない生き方。





ジェラートの牛乳は鮎原の新宅牧場さんから直接仕入れ、着色料などの添加物を使用しないため当日の朝に仕込んだもののみを提供。翌日には提供しないスタイルでこだわりが光る。

08 ジェラートカフェとこだわり 奥田夫妻



Data 08

移住：2015 年

奥田 正さん（大阪府出身）

奥田真衣さん（兵庫県加西市出身）

島の恵みジェラートのら

住 所：兵庫県淡路市下司 118

電 話：080-1517-8290

営 業 日：金・土・日曜・祝日

営業時間：10:30 ～ 17:00

イベントも随時開催（要お問合せ）



だから淡路島。

自然が豊か。人がフレンドリー。
幼い頃に農業がカッコイイと感じ、
就農を志し農業の勉強をするため
に淡路島の大学へ。
淡路島で不便を感じることがなく、
人との触れ合い、繋がりが淡路島
の何よりの魅力。
農業が大好きで、嫌なことにも農
業があるから向き合える。

淡路島の大学卒業、
そのまま就職。

休日も気になって畑の様子を見に
行ってしまうほど農業が好きな
木谷さん。淡路島移住のきっかけ
は、農業の大学。卒業した今は日
本一の玉ねぎを目指す2525
ファームに就職し、日々農作物と
向き合う。
休みの日は趣味の写真を撮りに
淡路島を駆け巡る。

コミュニティが大事。
人があたたかい。

淡路島で生きていくには、人とつ
ながる事が必須だと言う。既にコ
ミュニティができあがっているの
で、入っていけば、あたたかく迎
えてくれる。
淡路島の農業女子グループにも参
加し、地元のつながりも増え、淡
路島の人のあたたかみにも触れな
がらの生活が心地よいと感じるの
だそう。

農業が大好き。



「日本一おいしい玉ねぎ」を作りたい。
 今後は2525ファームで、商品や農法の提案をしていくためにも、
 まず農業が何かをしっかりと理解できるようになりたいという。



photo by Mei Kitani



photo by Mei Kitani

Data 09

移住：2013 年

木谷芽生さん（奈良県出身）

2525ファーム

<http://2525farm.com/>

だから淡路島。

長男が産まれた時に、都会での子育てに違和感があり、日々の生活に窮屈さを感じていた。

いくつかの移住先を候補に、1年かけて見て回ったが、最終的に来た淡路島で、出会った人や景色、お店などの印象が良く、その日に決めた。子育てをするためには最適で、あたたかい人が淡路島には多くいて、自分たちに合っていた。

知り合いが重なる島
繋がる心地よさ。

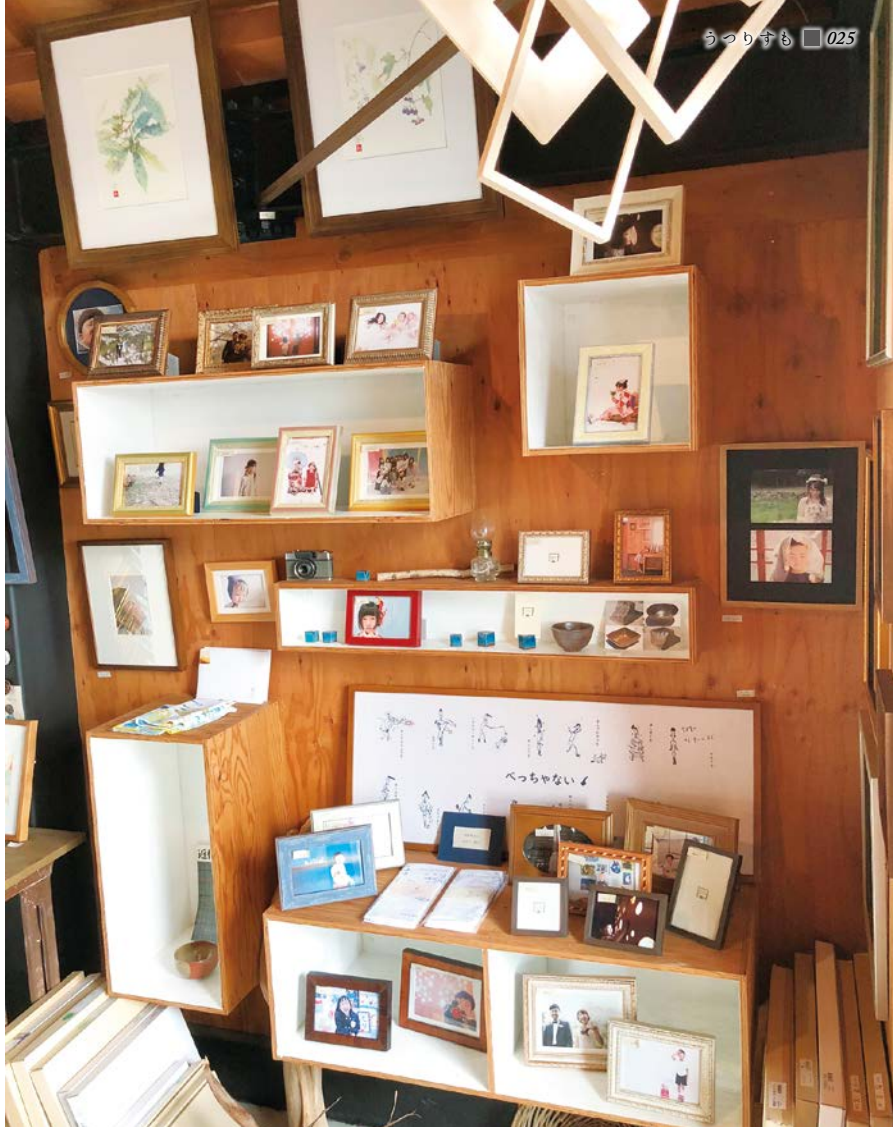
淡路島で暮らしていると、知り合いが何人も知り合い同士だったり、その人たちがお客さんを連れてきてくれたり。良い悪いではなく、どういう人と出会うかで、生活が変わってくることさえある。淡路島の中でもクリエイティブな活動をする人やお店同士のつながりも増えていくことが心地よく感じる。

身近に額縁。

中身と、飾る場をつなげるのが額縁。「このお店も額縁のような存在になれたら。」と、話す康弘さん。子育てをするために淡路島に来たという加藤さん夫妻は、いまや2人の子供を育て、地元に密着し、ゆっくり時間が流れるお店で、珈琲と共にさまざまな額縁を提案してくれる。



軽い気持ちではないけれど
「なんとかなるかな」も大事。



さまざまな額縁の見本などが置いてある。店内は近所に住むおじいさんや、仕事前に立ち寄った方などでにぎわいを見せる。

Data 10

移住：2014年

加藤康弘さん（東京都出身）

加藤史子さん（兵庫県加東市出身）

NeKi 額縁と珈琲

南あわじ市松帆古津路 577-104-2F

<https://www.ne-ki.net/>

あわじ島に住もう促進協議会

1.

兵庫県淡路県民局

〒 656-0021 洲本市塩屋2丁目4番5号
電話：0799-26-3248 FAX：0799-24-4513
E-Mail：sumotodoboku@pref.hyogo.lg.jp

2.

淡路市役所企画政策部まちづくり政策課

〒 656-2292 淡路市生穂新島8番地
電話：0799-64-2506 FAX：0799-64-2500
E-Mail：machizukuri@city.awaji.lg.jp



3.

洲本市役所企画情報部企画課

〒 656-8686 洲本市本町3丁目4番10号
電話：0799-22-3321(代) FAX：0799-23-2340
E-Mail：kikaku@city.sumoto.lg.jp
洲本市田舎暮らし応援サイト SUMOTTO（スモット）：<http://sumotto-countrylife.jp/>

4.

南あわじ市役所総務企画部ふるさと創生課

〒 656-0492 南あわじ市市善光寺22番地1
電話：0799-43-5205 FAX：0799-43-5305
E-Mail：furusato@city.minamiawaji.hyogo.jp

5.

NPO法人兵庫ふるさと創成センター

〒 656-2212 淡路市佐野1721番地
電話：0799-64-1162（平日9時～17時） FAX：0799-65-0829
ウェブサイト：<http://www.hyogofurusato.com/>

6.

（一社）兵庫県宅地建物取引業協会淡路支部

〒 656-0022 洲本市海岸通1丁目11番1号
電話：0799-24-0088 FAX：0799-22-9595
ウェブサイト：<http://tk-awajishibu.com/>

7.

（一財）淡路島くにうみ協会

〒 656-0022 洲本市海岸通1丁目11番1号 洲本ポートターミナルビル3階
電話：0799-24-2001 FAX：0799-25-2521
ウェブサイト：<http://www.kuniumi.or.jp/>

8.

NPO法人あわじFANクラブ

〒 656-0002 洲本市中川原町中川原92番地1
電話：080-5339-1378 FAX：0799-25-8068
E-Mail：yumeno-kuni@hotmail.co.jp
ウェブサイト：<http://awaji-fan.com/>

あわじ暮らし総合相談窓口

Infomation



神戸から明石海峡大橋を渡ると、そこはもう淡路島。美しい海と山、温暖な気候、あたたかい人情。自然いっぱいの環境で子育てをしたい方、自然の息吹の中で創造的な仕事をし

たい方、リタイア後の第2の人生を農作業や釣り三昧で過ごしたい方…などなど。それぞれの希望されるライフスタイルに応じたアドバイスをいたします。

CONTACT

自然豊かな淡路島で暮らそう！
あわじ暮らし総合相談窓口 公式サイト

<https://awajigurashi.com/>



あわじ暮らし総合相談窓口
公式 facebook ページ

<https://www.facebook.com/Awajigurashi/>

あわじ暮らし総合相談窓口
TEL：090-1247-1589（相談員直通）
（月～日 9:00～17:00）

※面談・相談のご希望の際は、
必ず事前にご予約ください。

淡路島に住みたいと思ったら、
まずはお気軽にお電話ください。

定住支援施設のご案内

移住を検討している方が1～6ヶ月の短期間でご利用できます。

家探しや仕事探し、お試して田舎暮らしを経験…。

などにご利用ください。



兵庫県洲本市中川原町中川原92番地1
特定非営利活動法人あわじ FAN クラブ
都市・農村交流施設「宙-おおぞら-」内

あわじ FAN クラブ 公式サイト

<http://awaji-fan.com/>



移住定住の相談窓口

あわじ暮らし総合相談窓口

〒656-0002 兵庫県洲本市中川原町中川原 92 番地 1

■ TEL. 090-1247-1589 ■ E-mail. info@awajigurashi.com



あわじ暮らし総合相談窓口にアクセスする

あわじ暮らし

検索

